

だったのは内緒です。

東京医科歯科大学 生体材料工学研究所
メディシナルケミストリー分野
(玉村研究室) 増田 朱美

私は今回初めて海外で行われる国際学会に参加しました。本学会では私の所属する玉村研での主要な研究テーマのひとつであるペプチド関連の学会でしたのでとても楽しみにしていました。私の研究テーマはジンクフィンガーを用いた人工酵素を作製し、その反応効率の最適化を行うことなので、講演や口頭発表はスライドを追うのが精いっぱいでしたが、私でも知っているような有名な先生が発表なさっていたので感動しました。私自身のポスター発表は上手くアピールできなかったのが残念でしたが、ポスター会場では思い切って数人の学生に話しかけてディスカッションをしました。ポスターは自分のペースで見ることができるので勉強になりました。3日目の夜には Student Mixer があり、各国の学生、ポスドクが集まって話せる場が設けられました。学生やポスドクの方達と研究のことや将来のこと、プライベートな話まで色々話すことができ、新鮮でした。今回の学会での私の一番の驚きは Banquet でのダンスです。日本の学会では見ない光景だったので楽しく拝見しました。

学会以外にも Scripps 研究所の見学をさせて頂き、研究所の日本人のポスドクの方にラボの案内や研究など、日常生活について詳しくお話しを伺う機会を先生方が作って下さいました。話をお伺いして、サンディエゴの気候の素晴らしさと住みやすさ、モチベーショ

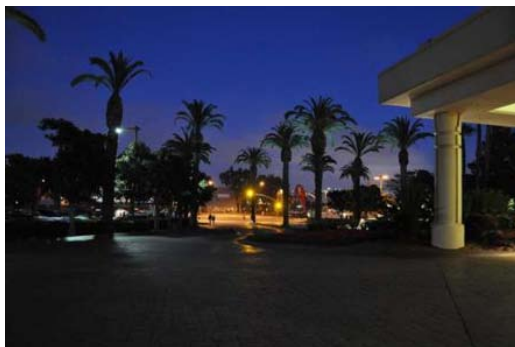
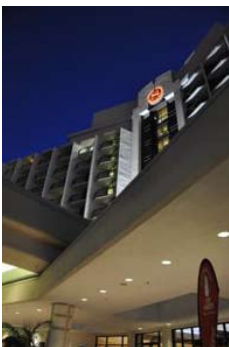
ンの高い仲間がいることを考えると研究生生活をするには素晴らしい環境であるということが分かりました。玉村先生が学会中に腰を痛めたこともあり、Scripps 研究所を2回も見学することができました。しかし、ジンクフィンガーを研究されている Barbas 先生にお会いできなかったことは心残りです。

その他観光・ショッピングなども十分楽しむことができ、サンディエゴを満喫することができました。毎晩先生方や他の研究室の学生の皆さんと楽しく飲めたこともとても良い思い出です。

海外の学会に参加される学生の方は合わせて大学や研究所のラボ見学をされることを強くお勧めします。将来の参考になることは間違いありません。

末筆ではございますが、今回の 22nd APS への参加をご支援して頂きました日本ペプチド学会の学会役員及び選考委員会の先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

あずま ゆうすけ
京都大学化学研究所
yusuke.a@hx4.ecs.kyoto-u.ac.jp
ひろせ ひさあき
京都大学化学研究所
hisaaki.hirose@f03.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
ますだ あけみ
東京医科歯科大学生体材料工学研究所
masuda.bio@tmd.ac.jp



会場となった Sheraton ホテル



サンディエゴのダウンタウンを望む



Opening Reception の様子





Student Mixer にて



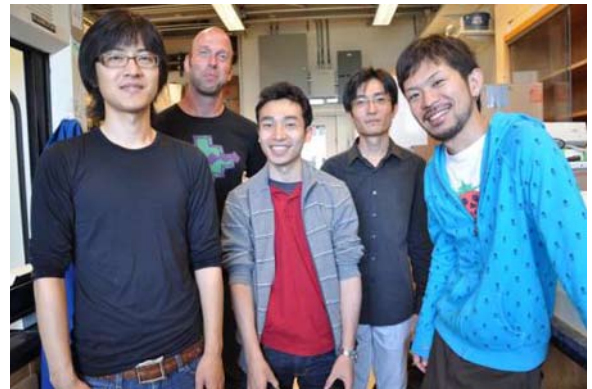
皆で中華料理も食べました



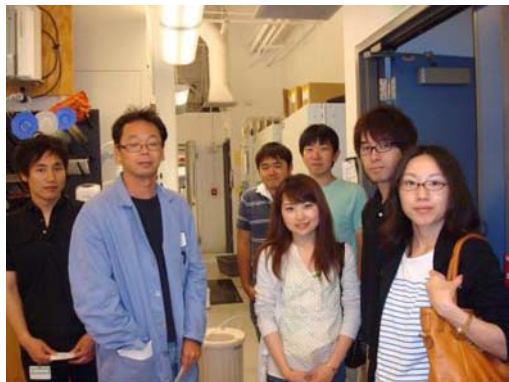
最終日の Banquet の様子



～番外編～
スタンフォード大学にて
山添紗有美博士（右から2人目）と



～番外編～
UCSD にて石川文洋博士（左から1人目）と



～番外編～
Scripps 研究所見学。東京薬科大学の山崎先生（右）と山田さん（右から2番目）と日本人研究員の方々と（左2人、右奥2人）。

第14回ペプチドフォーラムのお知らせ

第14回ペプチドフォーラムを本年12月に、鹿児島にて開催する運びとなりました。フォーラムのテーマは、“ペプチドサイエンスの最前線～機能性ペプチドのデザインと評価～”です。多くの学会員を含めたペプチド研究者の皆様のご参加をお待ちしています。

主催：日本ペプチド学会
 共催：日本化学会, 日本薬学会, 日本生化学会
 会期：2011年12月16日(金) 9時～15時30分
 会場：鹿児島大学産学官連携推進機構 1階
 ディスカッションルーム